



SHORT LETTER

キャンパスの思い出

学生相談室カウンセラー 眞田 知子

大学生の時、はじめて絵を描くための“キャンパス”を自分で作りました。ベニヤ板を切ってそれに角材を打ち付けてその上に白いペンキを塗るといざっくりしたものでした。高校までは既製のキャンパスを使っていたのですが、大学の美術部に入ったとき部員の方が手作りキャンパスを使っていて、その作り方を教わりました。キャンパスを画材屋で買うとすごく高いのですが、自分で作るとずいぶん安上がりになります。お金のない大学生にとってはありがたい限りでした。手作りの良いところは、サイズを自分で選べることでした。私の入った美術部は年に1回、部員全員で展覧会をするのが恒例行事でしたが、その時に120号(約1940センチ×1300センチ)の作品を描くということが課せられました。このサイズの既製のキャンパスは到底大学生には手が届きませんが、手作りならなんとかなります。ベニヤ板2枚を継ぎ合わせてキャンパスを作るのですが、かなりの大きさなので最初はこんな大きな絵を限られた時間で自分に描けるのかなあと半信半疑でした。大きすぎるので家に持って帰ることもできないですし、空き時間を使って四苦八苦です。油絵だったので油が乾く時間も考えるとある程度の時間がかかりました。最初は丁寧に描こうと思っていましたが、だんだん展覧会に間に合わせるためにそんなことを考えていられなくなり、完成させることで精一杯でした。最後の方になるとアトリエ(部室)に泊まって作品を仕上げたことを思い出します。小さな絵だと、どこか少しごまかしがきくのですが、大きな絵だとそうもいかないの、展覧会場に自分の絵が搬入されて、それを改めて見た時、目を覆いたくなるような恥ずかしさがありました。逆に先輩方の絵をみると、すごくセンスがあってあんな絵が描けたらいいなあと憧れたものでした。

大学時代にキャンパス作りを体験できたことや、義務的でしたが“大きな絵”を描いたことは今の自分の糧になっているような気がします。自分で自分の絵のサイズを選べるのは、なんだか自分の舞台を自分で選べるような気分です。手間暇かけてやることの“楽しさ”も教わったので、他のことでも一からやることの億劫さが減りました。また、“大きな絵”を体験したので、小さな絵を描くことがあまり苦にならなくなりました。大は小を兼ねるでしょうか。思い切ってやってしまうと、自分の枠がとっばらわれて広がるのかもしれない。逆から入っていたら案外大きなものにはチャレンジしにくかったのではないかと思います。

大学生の時はその時その時、目の前のことで精一杯でしたが、後になってからその時の意味が何倍にも何十倍にもなって帰ってきたような気がします。油絵具を買うためにバイトに精を出したことや、油まみれになりながら絵を描いた思い出は自分の宝物になっています。時折、カウンセリングの中で学生さんが「今やっていることに意味が感じられない」と言われます。意味が感じられない、わからないのも自然だなと思います。意味は後からついてくるものなのでその時にはわからないものです。逆に無意味なものも含まれるから意味のあるものも出てくるとも思います。もし悩んでいる時間があれば、その時間ですら後になって自分の宝物と化して帰ってくるかもしれません。大学時代は自分のやりたいことをやりたいようにやってほしいと思います。

学生相談室の利用について
詳細は、学生相談室ホームページを
ご覧ください。



学生相談室
ホームページ

開室時間

月曜日～金曜日 9:30～17:00

電話番号

078-974-1551 (代)

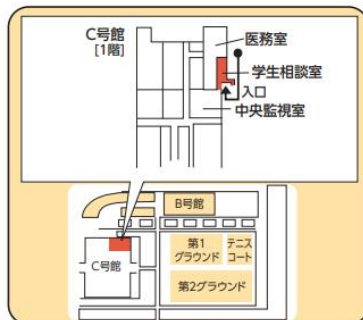
<KPC1>

内線73175 (直通 078-974-4639)

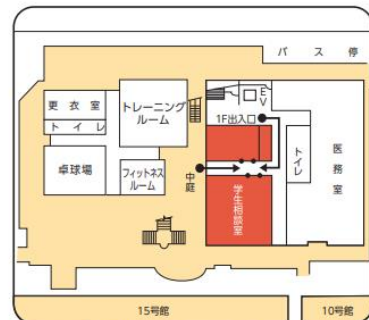
<KAC>

内線40109 (直通 078-974-5470)

場所



【学生相談室 (KPC1)】
C号館1階 グラウンド側
(医務室と中央監視室の間)



【学生相談室 (KAC)】
大学会館1階 中庭側
(医務室の隣)